

令和2年度 第1回向日市いじめ防止対策推進委員会

- 1 日 時 令和2年8月6日(木) 午後1時~同3時
2 場 所 乙訓総合庁舎1階 第2会議室
3 出席者 本間委員長 大学教授
加藤委員 小児科医
北口委員 臨床心理士
荒井委員 臨床心理士

4 内 容

(1) 令和元年度いじめ調査の結果の概要について(資料を基に説明)

①年間のいじめ調査の結果

- ・認知件数 小学校 1276件、中学校 168件、小中合計 1444件
- ・未解消件数 小学校 121件、中学校 47件、小中合計 168件
- ・解消件数 小学校 1155件、中学校 121件、小中合計 1276件

②昨年度との比較

- ・認知件数 小学校 176件減、中学校 14件減、小中合計 190件減
- ・未解消件数 小学校 21件減、中学校 27件増、小中合計 6件増
- ・解消件数 小学校 155件減、中学校 41件減、小中合計 196件減

③認知件数の経年比較

- ・認知件数は、平成30年から小中学校ともに減少傾向である。

④学年別認知件数の傾向

- ・昨年度と同様に、小学校低学年が一番多く、中学3年生まで学年順に減っている。

⑤認知されたいじめの態様

・小中学校ともに、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」、「ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする」、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が、いじめの態様の中で多くを占めている。

(2) 質疑

(委員) いじめの態様について、向日市は他市と比較して「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」の件数が少ないのは、指導の違いがあるからか。

(事務局) これまでからもパソコン等を介したひぼう中傷の件数は少なく、学校や家庭における指導の結果があらわれているものと考えている。

(委員長) 各市町村教委として、いじめ調査の結果をどのように評価し、学校へメッセージを送っているのか。

(事務局) 本市では、教育委員会や校長会においていじめの調査結果を提示している。その際、アンケートの調査結果だけでなく、登校時の表情等日常的な児童生徒の様子も注視するなど、今後も各学校において丁寧に対応するようメッセージを送っているところである。

(委員) 2市1町の地域性の違いはあるのか。

(事務局) どの市が落ち着いていて(または、落ち着いていない)という違いはない。

(委員) 各学校において、いじめ防止委員会という組織や会議の実態はどうか。

(事務局) 本市においては、各学校において定期的(週に1回等)にいじめ防止委員会を開催しいじめの

状況を把握、その後、全教職員で共有している。しかしながら、その際の意見交換などの内容を、丁寧に記録に残すことができていないことが課題である。

(委員長) 先ほどの、いじめ調査の結果についてであるが、丁寧にきめ細かく対応していくことはこれまでどおり大切なことである。現行のいじめ防止対策推進法におけるいじめについては、認知件数が生じることは当然のことなので、経年比較において数値が減少した際には「落ち着いた」という評価ではなく、いじめの「見落としが増えているのでは」という厳しめのメッセージを出してほしい。